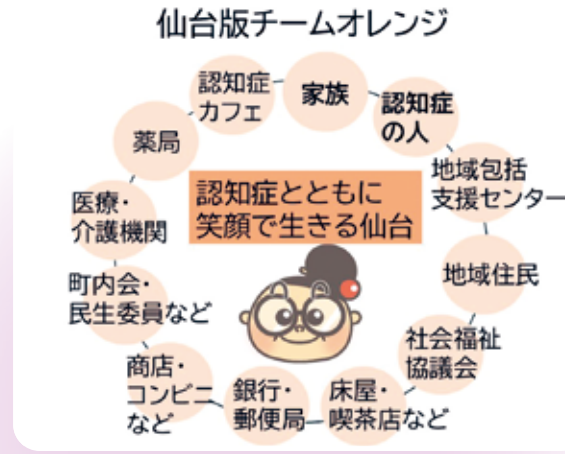


広がる「仙台版チームオレンジ」

仙台版チームオレンジは、認知症の方や家族の「やりたいこと」「困りごと」に対し、認知症サポーターや認知症パートナーなどが、本人や家族と共に活動しながら支え合い、その思いや希望の実現につなげるための仕組みです。「支援する」「支援される」の関係性を越えて、認知症の方も、地域の一員として主体的に参加し、共に活動することを大切にしていきます。



▲令和7年11月に仙台版チームオレンジ登録証交付式を開催しました



チームオレンジ登録団体 高森わいわい座談会（認知症カフェ）

地域で認知症の方と一緒に活動する「つぼみの会」と認知症の方などが利用するケア施設「グループホームむらでん高森」、そして高森地域包括支援センターが協力し、認知症の方やその家族向けに、交流や情報交換を行う場として毎月認知症カフェを開催しています。



▲7月の会では映画「ばげますから、よろしくお願いします。」の上映会と座談会を行いました。座談会では、参加者が映画の内容についてそれぞれの経験と重ねながら、感想や考えを述べ合いました



活動について、つぼみの会の皆さんは、「きっかけは近所の方が認知症と分かり、『何か一緒にできないか』と考えたことでした。まずは近所の散歩から始まり、だんだんと参加者や協力者が増え、認知症カフェという形になりました。活動する中で、認知症であることを知られたくないと考えていたご家族の方も、自身の体験を話そうになるといった変化も見られるようになりました。私たちだけではなく、地域の人たちもチームとなってこそだと思います」と話します。

また、認知症のご本人は、地域包括支援センターからの紹介で会に参加するようになり、以来毎月参加されているとのこと。参加する目的について、「自宅だけでなく外に出ていろいろな人と出会い、話すことが大切と思って参加しています」と話してくださいました。

認知症に関する相談窓口

相談窓口	日時	対象	電話
地域包括支援センター相談窓口★	毎週月～金 8:30～17:00	高齢者とその家族	各区の地域包括支援センター
せんだい高齢者・家族あんしんダイヤル	毎週月～金 0:00～8:30、 17:00～24:00、 (土)・(日)・(祝)・ 年末年始 0:00～24:00	市内にお住まいか居住予定のおおむね65歳以上の高齢者やその家族など	0120・475・335
物忘れ電話相談★	毎週月～金 9:00～16:00	物忘れが気になる方、認知症の方を介護している家族など	263・5091
若年性認知症の方の相談窓口★	毎週月～金 9:00～16:00	若年性認知症に不安を抱えるご本人やその家族など	346・7068

●★は祝休日を除く ●詳しくは市ホームページをご覧ください



仙台市認知症ケアパス

「認知症ケアパス」とは、相談できる窓口、医療のこと、暮らしのこと、交流できる場所（認知症カフェ）などについてまとめた冊子です。

●配布場所など詳しくはホームページをご覧ください



全市版
相談窓口や医療など日々の暮らしのことを掲載



個人版
診断を受けた方（診断後問もない方）向けに暮らしの情報などを掲載



地域版
認知症に関する地域のさまざまな情報を掲載

この特集に関するお問い合わせは、地域包括ケア推進課 ☎214・8499、FAX214・8980



認知症になっても、住み慣れた地域で、自分らしく「認知症とともに笑顔で生きる」

支え合う地域を目指して

本市では、高齢化の進展に伴い、認知症の方が増加しています。令和8年4月1日現在、市の人口約106万人（住民基本台帳上）のうち65歳以上の方は約27万2千人、高齢化率は約26パーセントとなっています。市の推計では、認知症の高齢者は約3万7千人、軽度認知障害の高齢者は約4万4千人とされ、今後さらに増加することが見込まれています。

認知症は誰にでも起こり得る身近なものです。本人や家族が不安や孤立を感じたり、日常生活のさまざまな場面で困難を抱えたりすることがあります。また、認知症に対する誤解や偏見が、社会参加を妨げる要因となることもあります。

市では、こうした課題に向き合うため「認知症になっても、ともに希望を持って生きることができるといふ」「新しい認知症観」を大切に、認知症の方や家族の声を生かした施策を進めています。

認知症サポーターや認知症パートナーの養成、認知症カフェの開催などを通じて、理解を広げる取り組みを進めており、令和7年度末には認知症サポーター養成者数が累計12万人を超えました。また、令和7年度には新たな取り組みとして、「仙台版チームオレンジ」を開始。5団体60人が登録し、そのうち認知症の方は8人、家族9人がチーム員として、活動に参加しています。

このほかにも市内の地域包括支援センターをはじめ、認知症疾患医療センターや物忘れ電話相談、家族交流会など本人や家族が気軽に相談できる相談窓口の体制も整えています。認知症ケアパスの配布や相談会の開催などを通じて、早期相談、早期支援につながる取り組みも整備しています。

認知症になっても、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられるよう、認知症の方や家族、地域の皆さんと共に、誰もが希望を持って暮らせる共生社会の実現に向けて取り組みを進めています。

「新しい認知症観」って？

認知症になったら何もできなくなるのではなく、認知症になってからも、一人一人ができること・やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間などつながりながら、希望を持って自分らしく暮らし続けることができるという考え方です。



詳細

古い認知症観

（他人ごと、問題重視、疎外、絶望）

- ①他人ごと、目をそらす、先送り
- ②認知症だと何もわからない、できなくなる
- ③本人は話せない、声を聞かない
- ④おかしい言動で周りが困る、社会の負担
- ⑤認知症は恥ずかしい、隠す
- ⑥暗い、萎縮、あきらめ、絶望的

※一部抜粋

新しい認知症観

（わがこと、可能性重視、ともに、希望）

- ①わがこと、向き合う、備える
- ②わかること、できることは豊富にある
- ③本人は声（サイン）を出せる、声を聴く
- ④本人が認知症バリアの中で一番困っている
- ⑤認知症でも自分は自分、オープンに
- ⑥楽しい、のびのび、あきらめず、希望を

※一部抜粋

出典：令和5年1月認知症地域支援体制整備全国合同セミナー資料（認知症介護研究・研修東京センターホームページ）を基に作成

認知症への理解を深めるために

「新しい認知症観」を広げる動画を公開中

認知症のご本人とご家族のインタビュー動画を、せんだいチューブで公開しています。等身大の思いと日々希望を持って生きる姿を、ぜひご覧ください。



詳細



世界アルツハイマーデー（認知症の日）記念講演会
父（認知症専門医・長谷川和夫）との対話
―気持ちを変えあうケア・暮らしの中で学んだこと

- 日時＝9月12日(土)13:00～15:30
- 会場＝仙台銀行ホール イズミティ21
- 講師＝南高まり氏 ●定員＝400人〔先着〕
- 直接会場へ



詳細